私見創見 Thursday

親の生き方こそ子の手本

命の話

畑山　篤
志学塾塾長

はたやま・あつし
1960年、八戸市生まれ。明治学院大卒。志学塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに関与する。全国学習塾協会理事。

「青森県　中学生2人いじめで自殺か…」という報道があった。夏休み明け前後に悲劇が続いたようだ。子どもが自ら命を絶つことは、極めて残念であり、無念だ。

先日、中学生のクラスで、「この報道を知っているか」「学校や家庭で命の話はあったか」と聞いてみた。

報道については、10校ほどの中学から通う40人余りの子ども全員が知っていた。

しかし、親と話をした子は5人だけ。「お前がやられたら私が許さない」「絶対死ぬなよ」「やったらやり返せ」「悪口は言うな」「ダメなら逃げろ」と言われた、と。5人には人生のよりどころが一つずつ増えたようだ。

学校で命の話があったと答えた子も1人いたが、「ネットトラブルに気をつけろ」という内容だったという。家庭でも学校でも、命の話に触れるのは難しい時代なのかもしれない。

もちろん塾も、受験対策や学校補習の他に、命の話をする時間があるわけではない。しかし、私は年に一度だけ、高校生のクラスで、大学入試に頻出する「相対と絶対」の授業をする際に、命の話をすることにしている。

「8月に入り、戦争に関するドキュメンタリーや映画などのテレビ番組が増えてきました。配布した入試問題は、太平洋戦争での特攻隊員の話です。この問題で問われているのは、誰もが例外なく到達する最期の気持ち、いわゆる『絶対精神』についてです。いつか訪れる別れの瞬間、人は何を思うのか…」

こう話して、今年も二つの質問をした。

第1問。上官が「明日飛び立つ。今夜だけは全員、家に帰ること。明朝、集合せよ」と言ったとあるが、さて、明日死ぬ定めの息子を迎えた父母は、夕食に何を準備したと思うか。

しばらくして、前列から順に指名した。高校生は真顔で「ハンバーグ！」「カツ」「特上ずし」。「普段通り」と答えられたのは、約1割だけだった。

第2問。翌朝、玄関先まで見送りに出た両親に、息子は「これまで育てていただき、ありがとうございました」と頭を下げたとあるが、さて、息子にかける親の言葉は。

順に指名しても、なかなかイメージが湧かないようだ。最後に運動部の男子が「しっかり命中するように…　ですか？」と自信なげに答えた。

ゆとり教育世代の子どもには、「身体に気をつけて。生水は飲まないように」などと、最期の最期まで子を案じる親の姿はインプットされていないようだ。

夫婦は子を授かり親になる。子が宝物なら、子育ての機会は、まさに奇跡の時間だ。健やかに育ち、無事に社会に巣立つことを願う。将来にわたり、事件事故、ましてや自殺など、わが子が先に逝くことは決して受け入れることはできない。

しかし、ゆとり教育世代の子は、安心、安全、便利な、本当に豊かなライフスタイルの中で育っている。学校で、家庭で、命の話はあるだろうか。

例えば、取り組むべき課題を前に、安易に効率的な方法や合理的方法を求めたがる。確かに〝近道〟が便利なことは多い。しかし、人生は往々にして〝寄り道や遠回り〟をしたり、つまずいたりするものだと教えたい。

コンピューターやネットとの対話が多い生活は、どうしても心の教育が欠ける。家庭は心の庭である。いずれ訪れる別れの瞬間まで、親は子に迎合することなくしつけたい。限りある命を意識した親の生き方こそが、子の手本だと思う。

文化庁15年度国語世論調査

葉　初の多数派に

「見れる」

若い世代ほど定着

「ら抜き言葉」のうち「見れる」「出れる」という表現を普段使う人の割合が、「見られる」「出られる」を使う人をわずかに上回ったことが21日、文化庁の2015年度国語に関する世論調査で分かった。1995年度の調査開始以来、複数のら抜き言葉の浸透度合いを定期的に尋ねているが、使う人が多数派になった例は初めて。

一方、「食べられる」「来られる」「考えられる」の三つは「ら抜き」を使う人の方が少なかった。「日本語を大切にしている」と78・5％が答えており、文化庁の担当者は「言葉の乱れが進んでいるわけではない。新聞など活字で『ら抜き言葉』は使われておらず、特に『見れる』『出れる』といった短い言葉で、話し言葉と書き言葉の使い分けが進んでいるのでは」と話している。

「初日の出が見れた」を使う人は48・4％（10年度調査47・2％）で、「見られた」は44・6％（同47・6％）。「早く出れる？」は45・1％（同44・0％）で「出られる？」は44・3％（48・0％）だった。16～19歳では「見れた」が76・2％、「出れる」が60・7％を占めるなど、若い世代ほど定着していた。

「日本語を大切にしている」と答えた人のうち「休ませていただきます」を「休ませて」と表現する「さ入れ言葉」を使っているのは17・1％。「大切にしていない」と答えた人の11・8％を上回り、言葉を意識する人の方が文法を誤る矛盾も見られた。

慣用句では「確信犯」の意味を「悪いことであると分かっていながらなされる行為、または行う人」と答えた人は69・4％で、本来の意味とされる「信念に基づいて正しいと信じてなされる行為、または行う人一

辺野古移設

沖縄県庁前で開かれた抗議集会で、つないだ手を上げて抗議の意思を示す参加者＝21日

国側の主張を全面的に認めた16日の福岡高裁那覇支部判決を批判し「屈することなく最高裁でも闘う」と決意を表明した。

翁長雄志知事も集会にメッセージを寄せ、最高裁に上告をする方針を改めて強調。「県民の負託を受けた知事として、辺野古に新基地は造らせないという信念を強く持ち、力を尽くす」と訴えた。

稲嶺進名護市長は、判決を「沖縄の歴史や県民の民意を全く顧みず、全て国の言い分のコピーだ」と非難。竹下勇夫弁護士は「地方がいくら反対しても国が決めたら従えと言っているのと同じだ」と断じた。

んがアピール文を読み上げた集会には、移設反対を掲げる県内の団体幹部や県選出の野党国会議員らが参加した。

田中元防衛相ら3人を略式起訴

公選法違反で長岡区検

7月の参院選で選挙管理委員会に届け出ていない文書を配ったとして、長岡区検は21日、公選法違反（法定外文書頒布）の罪で元防衛相の田中直紀氏(76)と事務所スタッフの男性2人の計3人を略式起訴した。

区検などによると、3人は参院選比例代表に民進党公認で出馬した田中氏への

田中氏が指示を出し、2人がそれぞれ文書の作成と送付を担当したとみられる。

芝居をテーマに八戸で29日講演会

八戸ペンクラブ

八戸ペンクラブ（吉田徳壽会長）は29日、八戸市内丸の八戸会館ホールで講演会を開く。「八戸にこだわって芝居をつくる」をテーマに、同市の劇団「やませ」主宰の大舘登美子さんが講演する。聴講料は一般300円（資料代とコーヒー代）、会員無料。時間は午後6時～同7時半。

問い合わせは、八戸ペン

●商品のお届け／お申し込み日より1週間前後。●お支払い方法／代金引換・クレジットカード。●送料／1回のご注文に